

# Self-Dual

## Kazuhito Tanaka

### 田中和人

2019年 5月3日[金] \_ 19日[日] 11:00 \_ 19:00

## Gallery PARC

### Works

#### 《 pLastic\_fLowers III 》

2019  
Chromogenic print  
W)457 × H)560mm

#### 《 PP 》

2019  
Chromogenic print, Acrylic and Oil on Canvas  
W)1300mm × H)1620mm

### Statement

本展『Self-Dual』では、2019年に制作した新作を発表しています。  
ひとつは2015年より取り組んでいる「pLastic\_fLowers」シリーズの延長線上、その最新作となる「pLastic\_fLowers III」。もうひとつはまったく新しいシリーズとなる「PP」からの作品です。

「pLastic\_fLowers III」は、机の上に置いた花瓶に活けられた花とカメラとの間に透明な板を立て、そこに花の様々な角度からの「見た目」をドローイング(あるいはペインティング)し、最後にペイントされた透明な板越しに花を重ねて撮影する手法によるものです。

花は視界に入った瞬間に、それが花であると認識されますが、ここでは、花の像と絵画(ドローイングやペインティング)を同一の写真表面上に提示することによって、その反射的な認識のプロセスを意識的に引き延ばすことを試んでいます。

また、すべてのプリントは暗室作業により手焼きしたもので、それぞれが1点のみのものです。

「PP」は、キャンバスに描いたアブストラクトなペインティングの上に、様々な色に露光された写真(印画紙)を貼ったものです。抽象絵画の歴史を視野に、色彩や構図を直感的に決定しながら描く絵画制作は、まるで即興的なスナップショット写真の撮影のような感覚を持つものでした。一方、その上に貼り付けられた写真は、暗室での手作業により一枚一枚の色彩や露光時間を注意深く調整したもので、それはまるでカラーフィールドペインティングを描くような感覚を持つものでした。

色面となったそれらの写真は(しばしばカッティングされ)ペインティングに呼応したり(させたり)、抵抗したりしながら、慎重かつ意図的に配置していきます。この作品では、「絵画」「写真」というメディウムを維持しながら同一の作品上に共存することで、それらが逆転と回復を繰り返すことで、同時に互いを解体していくことを試んでいます。

本展『Self-Dual』では、絵画と写真の二重性を探求する「pLastic\_fLowers III」と「PP」シリーズをあわせて展示することで、それぞれの視点・視野の違いを検証する機会であるとともに、この二つのシリーズ自体が時に重なり合い、時にズれることで、そこに「二重性」という構造の構築を目論むものです。

田中和人  
Kazuhito Tanaka

<http://kazuhitotanaka.tumblr.com>

### C.V.

1973年埼玉県生まれ。明治大学商学部卒業後、会社勤務を経て渡米。2004年School of VISUAL ATRS(ニューヨーク)卒業。写真による抽象表現を探求し、国内外で作品を発表。また展覧会の企画も手がける。現在、京都と埼玉を拠点に活動中。おもな個展に2017年「トランス/リアル・非実体的美術の可能性 vol.7 田中和人」(αM、東京)、2015年「pLastic\_fLowers」(Maki Fine Arts、東京)、「high & dry」(Gallery PARC、京都)など。おもなグループ展に2015年「NEW BALANCE #3」(XYZ collective、東京)、「hyper-materiality on photo」(G/P gallery shinonome、東京)など。おもな展覧会企画に2018年「画家の写真展」(soda、京都)、2014年「NEW INTIMACIES / ニュー・インティマシー」(Hotel Anteroom Kyoto Gallery 9.5、京都)、2012年「アブストラと12人の芸術家」(大同倉庫、京都)など。受賞歴に2011年TOKYO FRONTLINE PHOTO AWARD グランプリ受賞。